

木々の緑が鮮やかさを増し、新しい始まりを感じさせる季節となりました。約3年に及ぶコロナ禍も、ようやく終息の方向が見える春を迎えています。

本日ここに、令和5年度 東京都立大森高等学校 全日制課程 第78回入学式を挙行するにあたり、御多用の中御臨席賜りました、PTA会長 生田目様、ポプラ会会長 船木様、同窓会会長 草部様 に、高いところからではありますが、謹んで御礼申し上げます。

ただいま呼名を受け、正式に大森高等学校の生徒となった 127名の新入生の皆さん、改めて入学おめでとう。皆さんを大森高等学校の仲間として迎えることができ、大変うれしく思います。多くの皆さんは、中学校を卒業してからまだ半月ほどしか経っていませんが、春休み中に高校生になるのだ、という自覚はできたでしょうか。きっと、期待と不安とが入り混じった

気持ちで、今日を迎えたことと想像します。

保護者の皆様におかれましては、この入学式を迎えるまで、お子様を支えながら、様々なご準備をなさってきたことでしょう。本日、この晴れの日を迎えられましたこと、校長として共に喜び申し上げます。本校の教育活動を御理解いただき、これから始まるお子様の高校生活について、私たち教職員と力を合わせて、引き続きご支援いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

さて、この春、私は「礼儀正しきこそ最強の生存戦略である」という本を読みました。アメリカの研究者が書いたものの翻訳です。書店の棚に数多く並ぶ本の中から、なぜ私がこの本を選んだのか。それは、この本の題名こそが、私が校長として、日頃から生徒に伝えたい、と考えていることであつたからです。人はそれぞれ、外見や考え方や性格や国籍など、様々な違いがあ

ります。この本の著者は、そのような違いがありながらも人が人と協力して生き抜いていくには、無礼であるとうまくいかない、礼儀正しくあることが絶対に必要だ、と言っています。

ところで、皆さんは、つい先日、WBCで大活躍した大谷翔平さんという野球選手を知っていますね。彼はもともと他人より優れた運動能力と体格を持って生まれたから、あんなに有名になれたのだ、と思うでしょうか。確かにそれもあるでしょう。しかし、日本国内だけでなく、外国から彼が特に評価されているのは、日々努力をし続け、あれだけ騒がれても謙虚さを失わない、人間力にある、とも言われています。つまり彼は、人に対して無礼でなく、自分に対して努力を怠らない、総合的な人間力の持ち主であったから、成功できたのです。

大森高等学校の校訓は、「敬愛 誠実 努力」です。それこそが、「人間力」の象徴であると私

は考えています。大谷選手のような有名な人にならなくても、一人一人が自分の持てる力を発揮し、誰かとその力を合わせて生きていくためには、人間力を磨く努力が不可欠なのです。

どうか皆さん、礼儀正しさを、先輩や先生のような目上の人に対してだけでなく、同級生同士であっても、家族であっても、町ですれちがう知らない人に対してであっても、いつも発揮できる大森高校生であってください。それが、敬愛 誠実 努力 の実現につながるからです。皆さんの大森高校での3年間が、充実した人間力育成の時間になることを、私は心から願っています。

結びに、私たち教職員一同、この大森高等学校に迎えた新入生の皆さんを、社会に送り出すまでしっかりと育てることをここにお約束し、式辞といたします。

令和5年4月7日

東京都立大森高等学校長 池田 美穂